

[参考事項]

新技術名：秋田県内の大豆ほ場における難防除する性帰化雑草の発生状況（平成 25～29 年）

研究機関名 農業試験場 作物部 作物栽培担当
担 当 者 三浦恒子・加藤雅也 他 7 名

[要約]

秋田県内の大豆ほ場における難防除する性帰化雑草の帰化アサガオ類やアレチウリの発生状況をまとめた。大豆栽培面積の大きい地域で、難防除する性帰化雑草の発生が多く、発生地点が多い草種はアメリカアサガオである。

[普及対象範囲]

県内大豆ほ場

[ねらい]

秋田県内の大豆ほ場では平成 23 年以降、難防除する性帰化雑草のアメリカアサガオ、アレチウリ等の発生が確認されている。これらの雑草は除草効果の高い除草剤と防除方法が限られるため、ほ場への侵入前や侵入初期での防除が重要である。そこで、これまで農試の現地防除試験や各地域振興局農林部の普及活動で明らかになった県内の発生状況をまとめ、早期対応のための資とする。

[技術の内容・特徴]

- 1 平成 23 年の県内大豆ほ場の実態調査において、県内で初めて大豆ほ場内でのアメリカアサガオとアレチウリの発生を確認したため、平成 25 年 3 月に難防除する性帰化雑草の早期発見を促すチラシを作成した（図 1）。チラシは関係機関や団体、生産者に配布されて情報収集等に利用され、チラシ配布の数年前から難防除する性帰化雑草が大豆ほ場に発生していたことが判明した。
- 2 秋田県大豆ほ場に発生する難防除する性帰化雑草のうち、最も発生地点が多いのはアメリカアサガオ、次はアレチウリである。また、大豆栽培面積の大きい地域で難防除する性帰化雑草発生ほ場が多く確認されている（図 2）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 平成 23 年の調査は、あきたの大豆未来戦略事業（平成 21～23 年度）によるものである。
- 2 図 2 に示した地点は、防除試験または普及活動でそれぞれ調査されたほ場の位置であり、県内の大豆ほ場を網羅し、かつ統一の方法で調査したものではない。
- 3 図 2 の難防除する性帰化雑草発生ほ場における雑草発生量は、ほ場により異なる。また地域やほ場によっては確認後に適切な防除（平成 28 年度実用化できる研究成果〔参考事項〕大豆作における難防除する性帰化雑草に効果の高い土壌処理剤を用いた雑草防除体系を参照）が行われて現時点では発生がない場合もある。
- 4 アレチウリは特定外来生物のため、生きたままの移動が原則禁止されていることから、発生ほ場での取り扱いは十分に注意する。
- 5 難防除する性帰化雑草の発生ほ場の増加をうけて、平成 30 年 2 月に難防除する性帰化雑草への早期対応を促すチラシを新しく作成した（図 3）。

[具体的なデータ]



図 1 難防除つる性帰化雑草の早期発見を促すために作成したチラシ (平成 25 年 3 月)



図 3 新しく作成した難防除帰化雑草チラシ (平成 30 年 2 月)

[発表論文等]

佐藤健介・三浦恒子. 2011. 東北の雑草 11: 19-21

森田弘彦・小笠原希美・吉田ゆい奈・金子美咲・三浦恒子. 2013. 雑草研究 58 (別): 74

片野英樹・松橋文仁・三浦恒子. 2015. 日本植物調節剤研究協会東北支部会報 50: 31-33

三浦恒子・加藤雅也・片野英樹・薄井雄太. 2017. 日本雑草学会第 56 回講演要旨集: 63

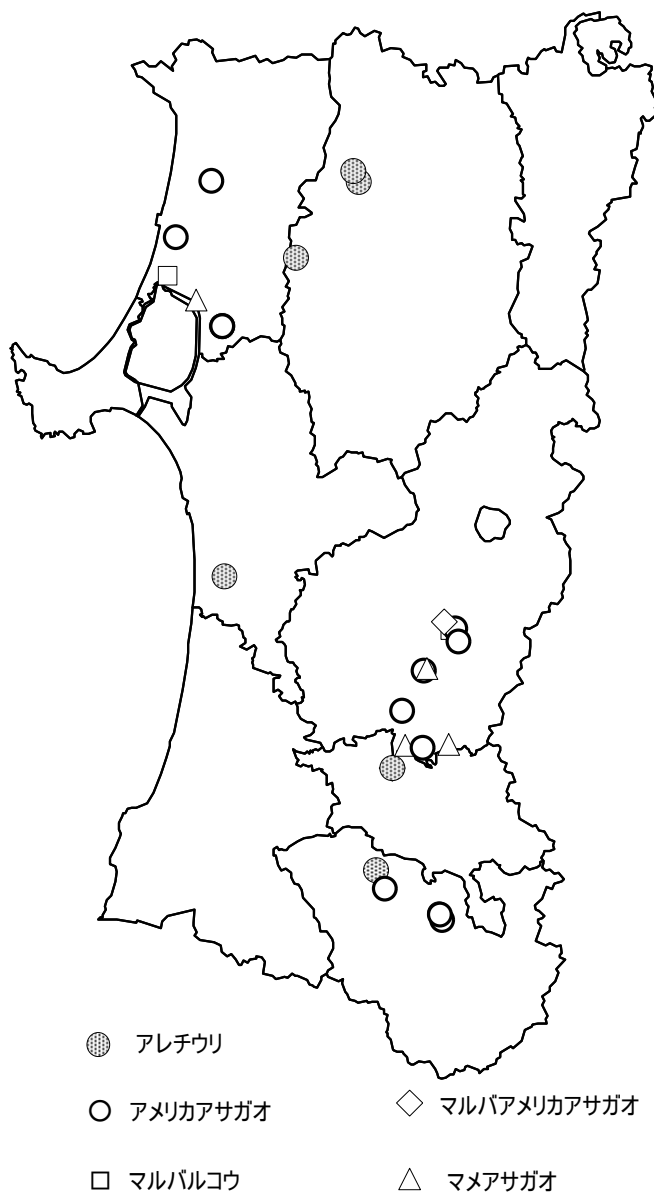


図 2 難防除つる性帰化雑草を確認した秋田県の大豆ほ場の分布